

経済レポート

グラフで見る関西経済(2017年9月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。生産は持ち直しが一服しているが、輸出は持ち直している。雇用環境をみると、有効求人倍率が高水準で推移し、緩やかに持ち直し、賃金も持ち直しの動きが見られる。個人消費は持ち直しの動きが見られる。住宅着工は横ばい圏で推移している。設備投資は製造業を中心に持ち直している。公共投資は減少している。先行きについては、海外経済が緩やかな回復基調をたどる中、生産、輸出の持ち直しが見込まれる。個人消費は所得環境の緩やかな持ち直しを背景に緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。住宅投資は横ばい圏での推移となろう。関西経済は緩やかな持ち直しが見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	→	☁	↗
個人消費	↗	☁	↗	輸入	→	☁	→
住宅投資	→	☁	→	生産	→	☁☀	↗
設備投資	↗	☁☔	↗	雇用	↗	☁☀	→
公共投資	↘	☁	↘	賃金	→	☔	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～トランプ政権の混乱と政策の行方、米景気への影響、中国経済の回復と不良債権など構造問題、北朝鮮など地政学リスクの動向
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、設備投資、インバウンド消費の先行き
- ・政策～金融政策の今後の展開、衆院解散総選挙に向けた動き
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響、資産価格変動の影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る関西経済」の見方】参照

【各項目のヘッドライン】

項目	8月のコメント	9月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しの動きが弱まっている	緩やかに持ち直している	3~4
2. 生産	持ち直しが一服	持ち直しが一服	5~7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる	9~10
5. 個人消費	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	13~14
7. 設備投資	製造業を中心に 持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直している	14~16
8. 公共投資	減少している	減少している	16~17
9. 輸出入	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい	18~19
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	19
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	20
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は増加、負債総額は減少	20

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料: 「グラフでみる景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
1. 景気全般

生産の持ち直しが一服しているものの、設備投資、輸出が持ち直し、消費も持ち直しの動きが見られる。

5. 個人消費

内閣府が8月に公表した地域別消費総合指数によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、2017年に入って以降、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

7. 設備投資

2017年4~6月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+4.2%と3四半期連続で増加した。また、内閣府が8月に公表した地域別設備投資総合指数を見ても、このところ持ち直している。

5. 輸出

8月の近畿地区の実質輸出は前月比+3.1%と2ヶ月ぶりに増加となり、均してみると持ち直している。

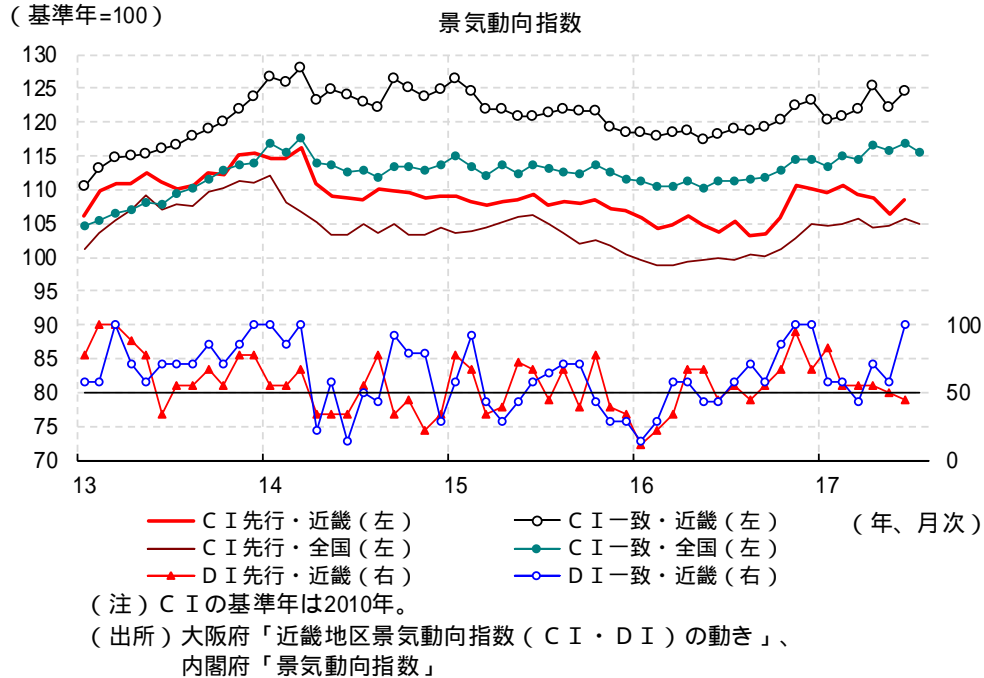
【主要経済指標の推移】

経済指標		16 4-6	16 7-9	16 10-12	17 1-3	17 4-6	17 3	17 4	17 5	17 6	17 7	17 8	
景気全般	景気動向指数(近畿) C I 先行指数(05年=100)	104.8	103.9	108.8	109.8	109.5	109.3	108.7	106.5	108.4			
	C I 一致指数(")	118.1	118.9	122.0	121.0	124.1	121.9	125.4	122.2	124.6			
	D I 先行指数(%ポイント)	59.3	51.9	75.9	64.8	50.0	55.6	55.6	50.0	44.4			
	D I 一致指数(")	47.6	61.9	95.2	52.4	76.2	42.9	71.4	57.1	100.0			
	景気ウォッチャー調査 現状判断D I (")	41.1	45.4	51.3	49.8	48.8	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	
	(近畿、季節調整値) 先行判断D I (")	42.7	47.0	50.0	49.2	48.9	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	
	日銀短観(近畿)業況判断D I 製造業(%ポイント)	-2	0	3	8	11	3	<6月予想>					
	非製造業(")	4	6	5	8	11	2	<6月予想>					
	法人企業統計(近畿)経常利益 製造業(兆円)	0.7	0.4	1.0	0.7	1.2							
	非製造業(兆円)	0.7	0.6	0.6	0.4	0.9							
生産	鉱工業生産(近畿)(季節調整済、前期比・前月比)	1.0	1.4	3.1	-0.3	-0.3	-0.3	2.3	-4.1	2.3	-0.9		
	鉱工業出荷(近畿)(")	1.3	1.3	3.1	-1.9	-1.9	1.5	1.0	-2.7	2.6	-1.9		
	鉱工業在庫(近畿)(")	1.4	0.4	-7.2	4.8	4.8	1.7	4.6	1.1	-1.9	0.7		
	鉱工業生産(近畿)鉄鋼(")	-0.3	1.0	0.0	1.7	1.7	-2.1	5.9	-6.0	0.4	-0.2		
	金属製品(")	-15.1	-6.5	-0.6	22.3	22.3	-1.5	-5.4	-25.3	33.6	-6.6		
	一般機械(")	7.9	-0.7	9.9	-2.8	-2.8	-4.2	3.3	8.9	-4.5	-6.5		
	輸送機械(")	-1.1	3.7	6.0	-1.4	-1.4	6.3	5.4	-6.6	-2.7	2.7		
	電気機械(")	-0.6	4.9	-0.8	-2.6	-2.6	3.3	7.3	-6.2	0.3	2.7		
	化学(")	0.3	1.2	3.7	-3.1	-3.1	2.0	2.6	-9.7	1.4	8.0		
雇用	完全失業率(近畿)(%)	3.8	3.8	3.1	3.1	3.0	3.2	2.9	3.2	3.0	3.1		
	就業者数(近畿)(万人)	888	894	921	900	906	891	898	904	916	910		
	雇用者数(近畿)建設業(前年差、万人)	-3	5	5	4	2							
	製造業(")	0	2	-8	6	3							
	運輸業、郵便業(")	-4	-1	-1	-6	0							
	卸売業、小売業(")	1	4	6	3	5							
	医療、福祉(")	20	16	5	-6	0							
	サービス業(医療、福祉以外)(")	2	10	5	3	13							
有効求人倍率(近畿)(季節調整値、倍)	1.27	1.29	1.33	1.35	1.44	1.36	1.41	1.44	1.46	1.47			
新規求人倍率(近畿)(")	1.99	2.00	2.09	2.06	2.23	2.04	2.11	2.39	2.20	2.23			
賃金	現金給与総額(近畿)	0.7	-0.2	0.4	0.1	1.1	0.4	0.3	0.6	2.0			
	所定内給与(近畿)	0.1	0.9	0.7	0.4	1.1	-0.6	0.0	0.4	0.6			
	所定外給与(近畿)	0.1	0.8	0.6	0.5	1.2	2.3	1.6	1.3	1.7			
	勤労者世帯(含む農家)の名目収入(近畿)勤め先収入	-0.1	0.7	7.9	-3.4	-2.0	-4.0	-1.7	-3.3	-1.4	4.3		
定期収入	3.1	7.2	7.0	2.2	2.0	1.9	4.5	1.9	1.7	4.8			
個人消費	勤労者世帯(含む農家)の名目消費支出(近畿)	-6.2	-3.5	-4.3	-1.4	3.4	6.4	0.2	2.8	8.1	-0.1		
	大型小売店販売状況(近畿)百貨店+スーパー	-2.2	-3.2	-1.7	-1.2	0.7	-1.1	0.9	0.1	1.1	0.3		
	コンビニエンス・ストア販売状況(近畿)	4.5	4.8	5.1	3.2	3.6	3.9	3.2	4.6	3.1	3.0		
	家電大型専門店販売額(近畿)	-1.7	-3.9	-2.6	1.0	0.6	6.5	3.9	1.3	-3.5	7.5		
	新車登録台数(近畿)	-0.1	-0.6	7.7	8.4	12.1	10.5	9.0	12.5	14.8	2.0	2.4	
	消費者態度指数(近畿、一般世帯)(原数値)	41.3	42.0	40.8	42.3	43.1	43.1	43.1	43.0	43.2	43.2	43.2	
住宅投資	新設住宅着工戸数(近畿)(季節調整済年率換算、千戸)	147.5	139.0	135.6	147.2	141.5	144.4	140.4	145.7	138.5	151.0		
	(前年比、%)	5.3	4.8	-0.3	1.0	-4.1	-0.4	-9.5	4.1	-5.4	-3.3		
設備投資	法人企業統計季報(近畿)設備投資 製造業	13.3	-1.5	17.7	15.4	10.8							
	非製造業	-16.9	-9.1	-11.6	-2.3	-2.3							
	企業立地件数(近畿)(件)						15						
公共投資	公共工事請負額(近畿)	-2.7	26.4	-6.0	-8.6	-18.0	-6.2	-27.8	20.0	-29.2	-31.3	-24.7	
輸出入	実質輸出(近畿)(季節調整済、15年=100)	101.3	101.9	104.3	106.5	105.0	104.6	106.3	103.0	105.8	105.7	109.0	
	通関輸出(大阪税関)輸出総額	-9.6	-10.3	-1.5	7.5	8.6	10.4	5.9	12.4	8.0	10.8	17.4	
	実質輸入(近畿)(季節調整済、15年=100)	100.2	100.3	99.1	101.3	103.5	101.4	106.6	99.0	105.0	102.9	102.9	
	通関輸入(大阪税関)輸入総額	-15.2	-16.7	-10.3	5.5	13.0	12.3	11.2	13.4	14.4	16.7	12.6	
物価	消費者物価指数(近畿)生鮮食品を除く総合	-0.1	-0.3	-0.3	-0.1	0.2	-0.1	0.2	0.2	0.3	0.5		
	食料及びエネルギーを除く総合	0.4	0.1	0.1	-0.1	0.2	0.5	0.6	0.6	0.7	0.8		
金融	国内銀行預金残高(近畿)	3.3	3.7	4.1	4.5	3.8	3.9	4.0	3.7	3.6	3.6		
	国内銀行貸出金残高(近畿)	0.9	1.0	0.6	1.2	1.6	1.1	1.5	1.8	1.6	1.4		
倒産	倒産件数(近畿)	-10.0	-5.4	-4.5	-4.0	5.8	10.7	-8.9	44.2	-8.7	18.8	2.8	

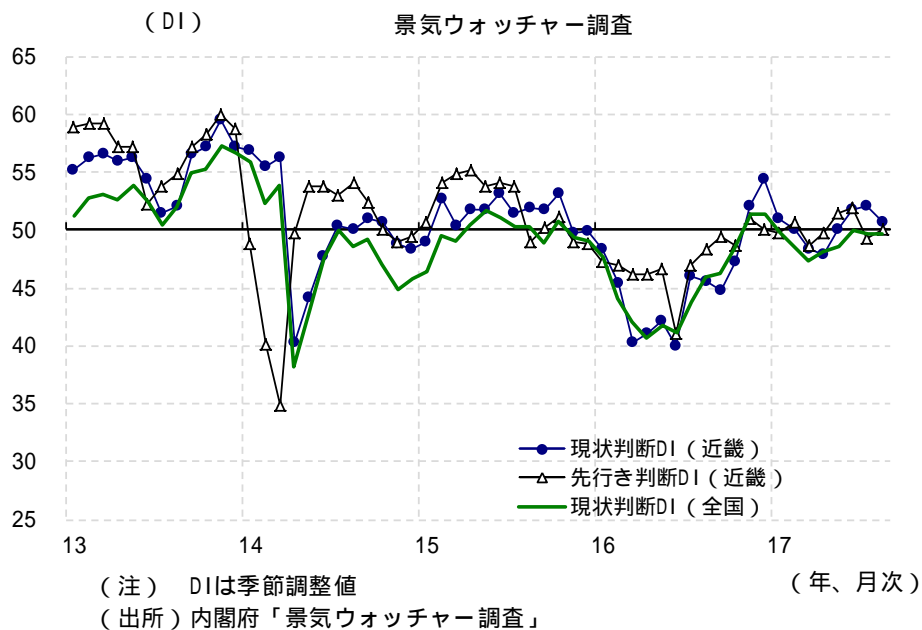
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している

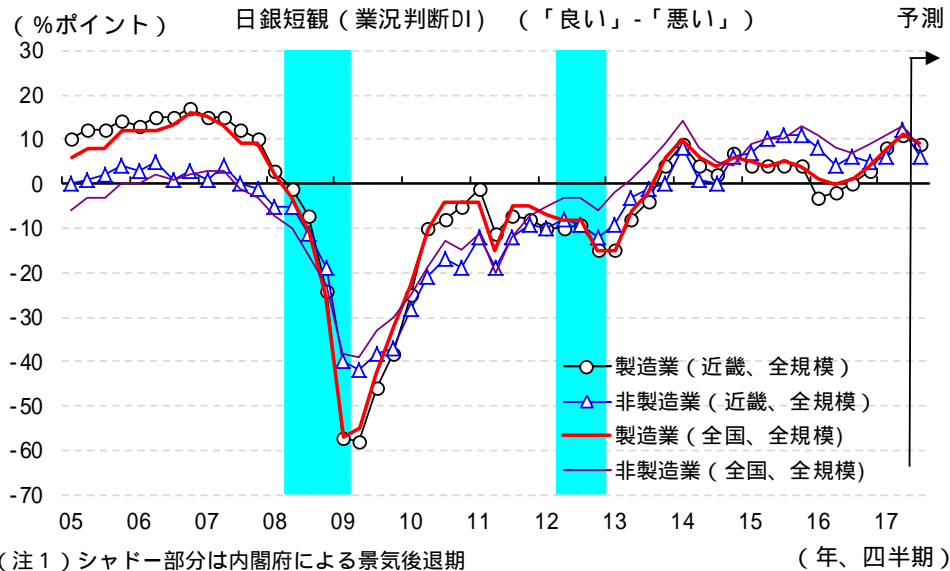
6月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は前月差+2.4ポイントの124.6と2ヶ月ぶりに上昇した。採用7系列のうち、鉱工業生産指数、生産財出荷指数、百貨店売場面積当たり販売額など6系列がプラスに寄与した。また、C I先行指数は同+1.9ポイントの108.4と4ヶ月ぶりに上昇した。採用9系列のうち、鉱工業在庫率指数、鉱工業在庫指数、乗用車新車販売台数など5系列がプラスに寄与した。



景気ウォッチャー調査によると、8月の近畿地区の現状判断D I (季節調整値)は前月差-1.5ポイントの50.6と4ヶ月ぶりに低下し、全国(49.7)とほぼ同水準となっている。先行き判断D I (季節調整値)については、同+0.8ポイントの50.0と2ヶ月ぶりに上昇し、全国(51.1)に比べやや低い水準となった。



日銀短観6月調査によると、近畿地区の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は全産業(全規模)で+12と前回3月調査から5ポイント改善した。製造業(全規模)は+11と3月調査から3ポイント改善し、非製造業(全規模)は+12と3月調査から6ポイント改善した。規模別では、大企業、中堅企業、中小企業のいずれも3月調査から改善した。先行きについては、製造業(全規模)は小幅悪化、非製造業(同)は悪化が見込まれる。

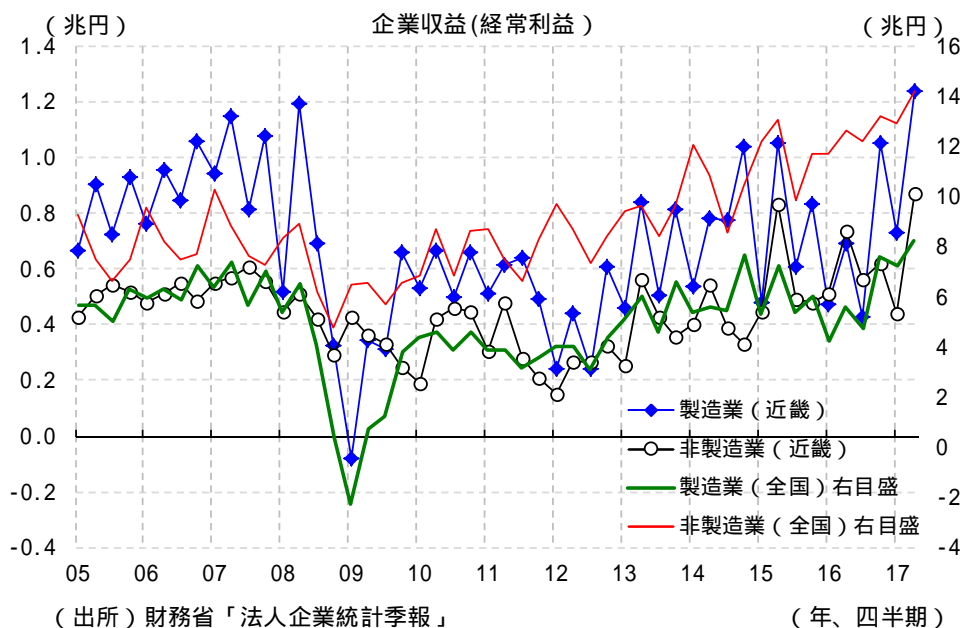


(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期

(注2) 2004年3月調査、2007年3月調査、2010年3月調査、2015年3月調査時点で、調査対象企業の見直しが行われたため、前後の系列にギャップがある

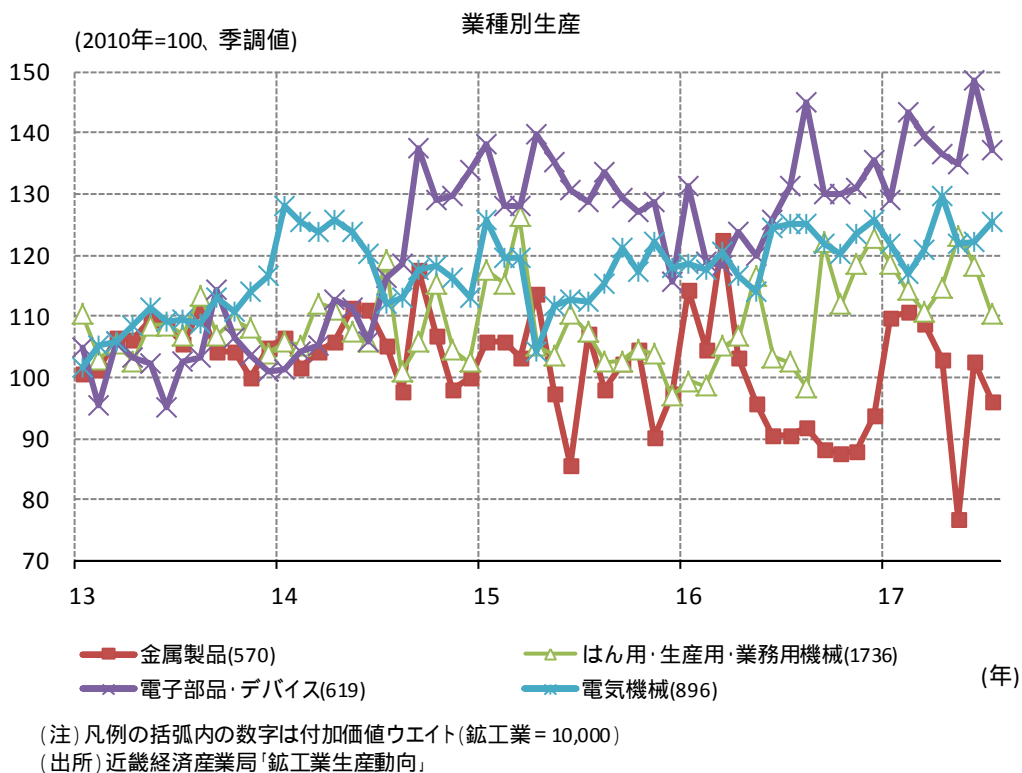
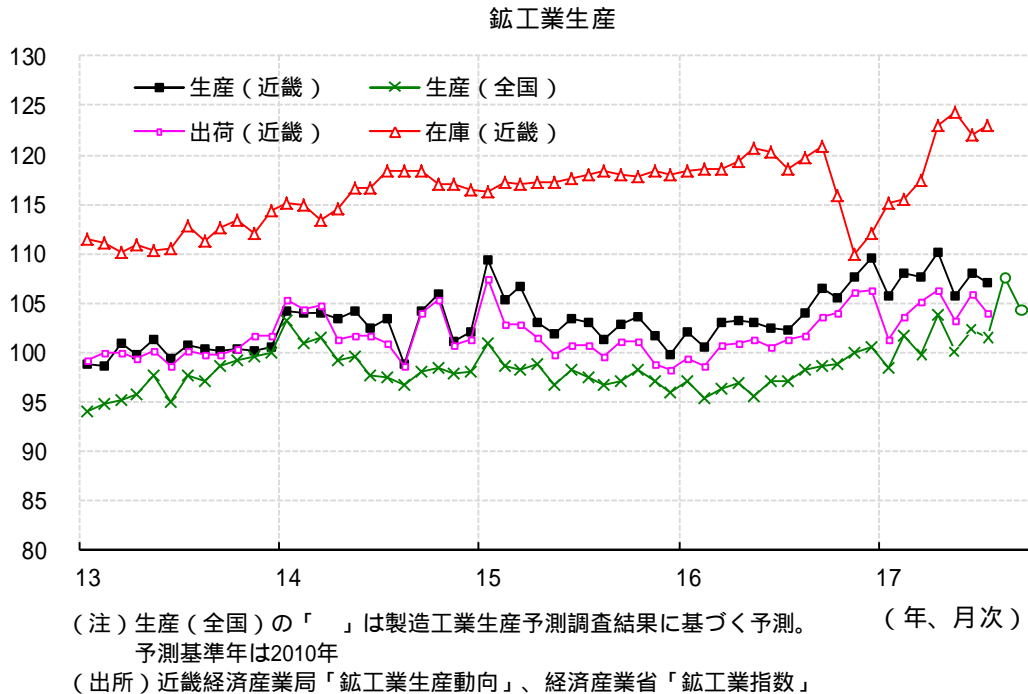
(出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

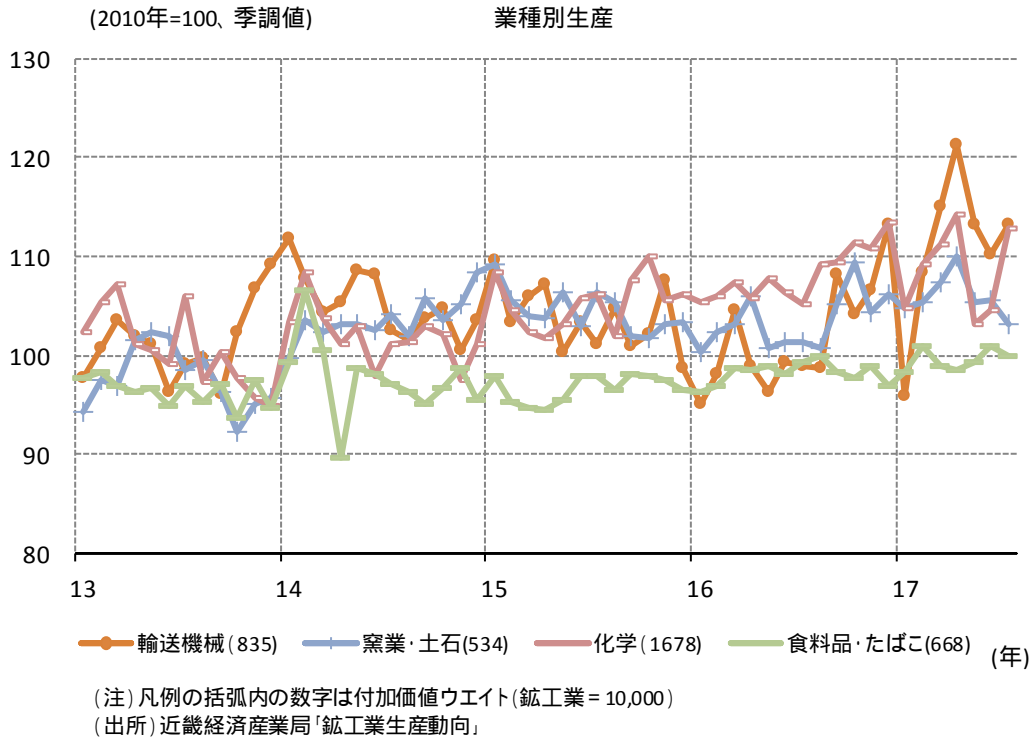
2017年4~6月期の近畿地区の大企業の経常利益(全産業)は、前年比+47.8%と3四半期連続で増加した。製造業は同+78.7%と3四半期連続で増加し、非製造業は同+18.6%と2四半期ぶりに増加した。日銀短観6月調査では、16年度の経常利益は全産業で同-3.0%、製造業で同-3.8%、非製造業で同-1.9%となった。17年度は全産業で同-0.3%、製造業で同+0.5%、非製造業で同-1.6%と計画されている。



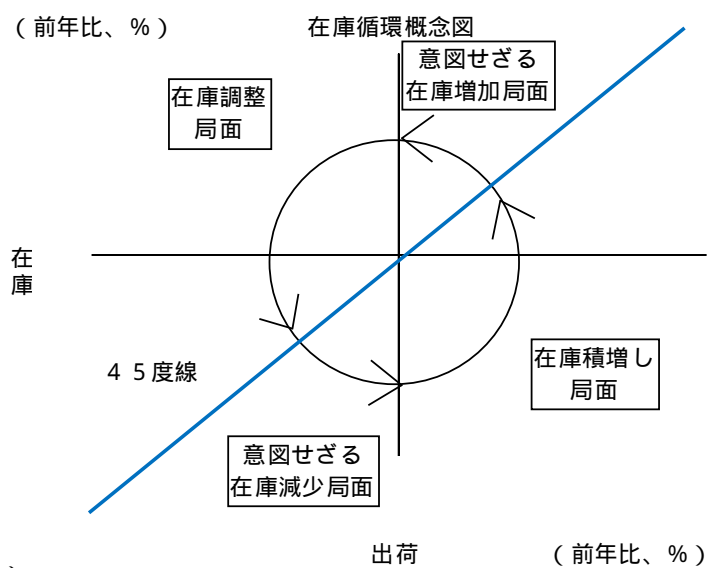
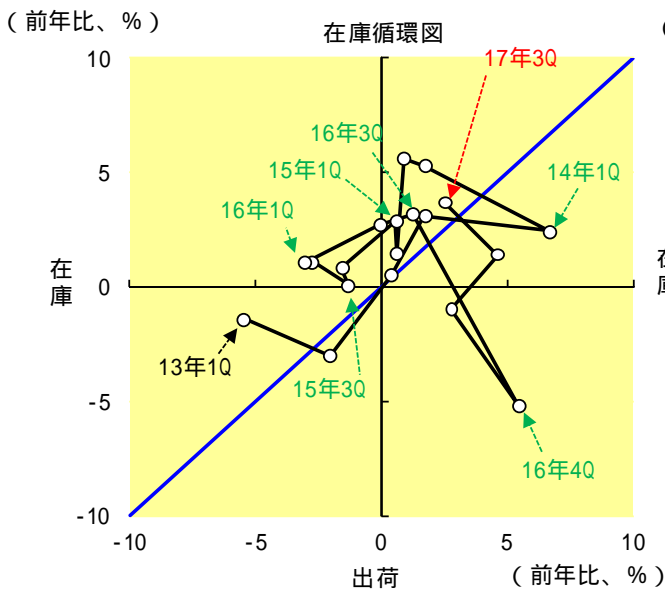
2. 生産 ~持ち直しが一服

7月の近畿地区の鉱工業生産は、前月比 - 0.9%と2ヶ月ぶりに減少した。化学(除医薬品)、電気機械などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、金属製品などが減少した。近畿地区の生産は、持ち直しが一服している。今後の生産については、世界経済の緩やかな回復が見込まれる中、再び持ち直してくると見込まれる。





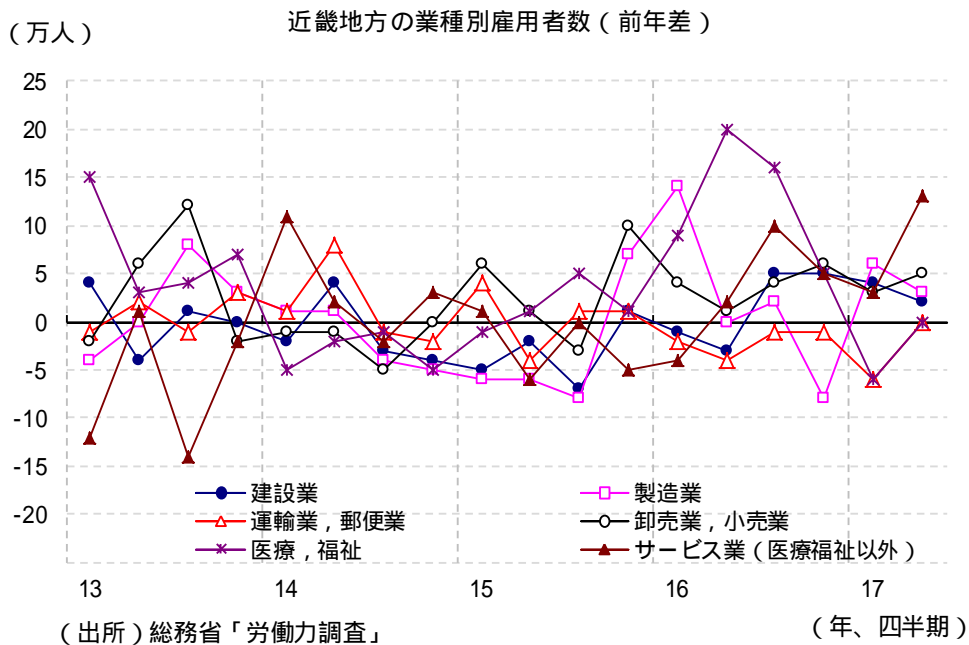
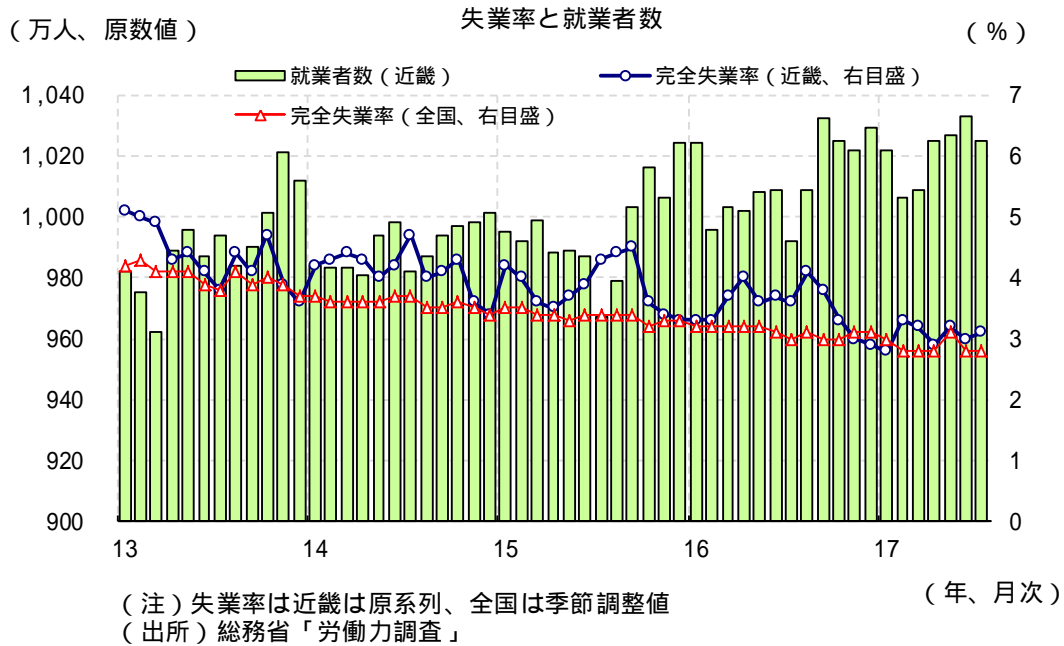
7月の近畿地区の鉱工業出荷は前月比 - 1.9%と2ヶ月ぶりに減少した。化学(除医薬品)、石油・石炭製品などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、電気機械、電子部品・デバイスなどが減少した。鉱工業在庫は同 + 0.7%と2ヶ月ぶりに増加した。はん用・生産用・業務用機械、電気機械などが減少したが、化学(除医薬品)、鉄鋼、プラスチック製品などが増加した。



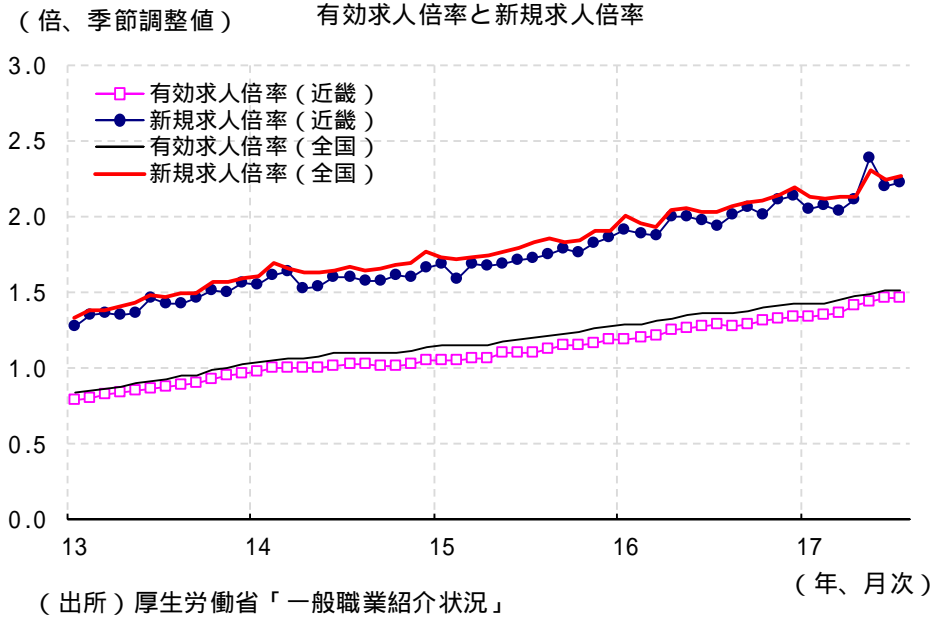
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 直近17年3Qの出荷、在庫は7月の前年比
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

7月の近畿の完全失業率は前年差 - 0.5ポイントの3.1%となった。雇用者数は前年差36万人の増加、就業者数は同33万人の増加、完全失業者数は同4万人の減少となった。業種別(4~6月期)に雇用者数をみると、建設業、製造業、サービス業(医療福祉以外)などが増加した。景気に持ち直しの動きが見られる中、今後の雇用も緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。

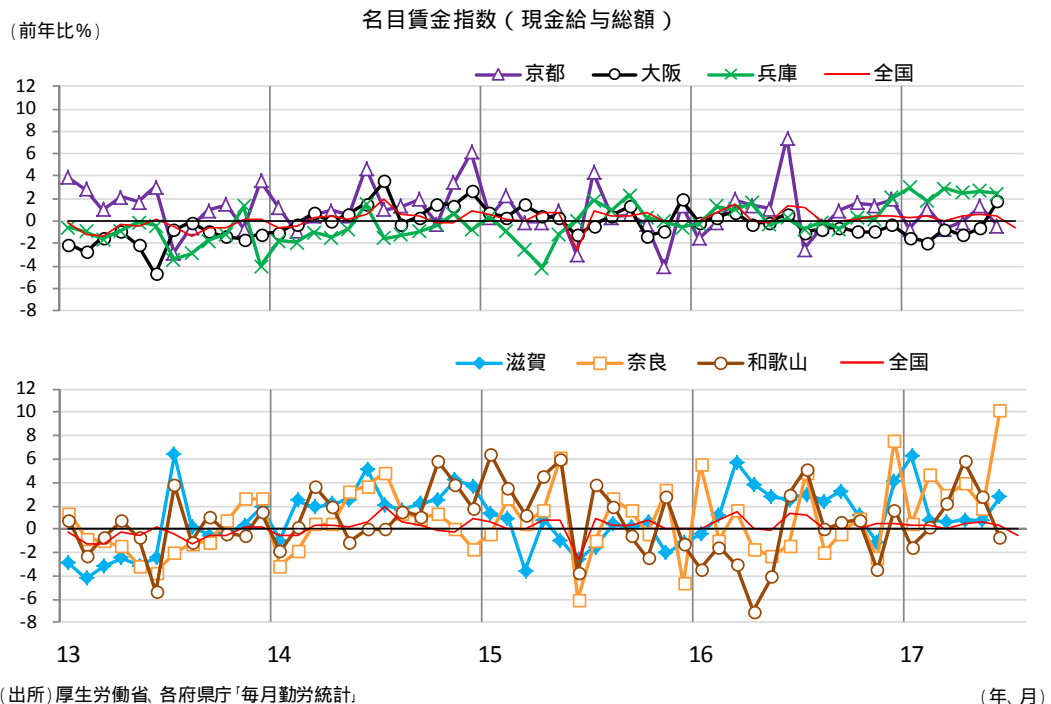


7月の近畿圏の有効求人倍率は前月差+0.01ポイントの1.47倍と6ヶ月連続で上昇した。有効求人数が前月比+0.7%と5ヶ月連続で増加し、有効求職者数は前月とほぼ同水準となった。また、有効求人倍率に先行する新規求人倍率は前月差+0.03ポイントの2.23倍と2ヶ月ぶりに上昇した。新規求人数は前月比+0.7%と2ヶ月ぶりに増加し、新規求職申込件数は同-0.9%と2ヶ月ぶりに減少した。

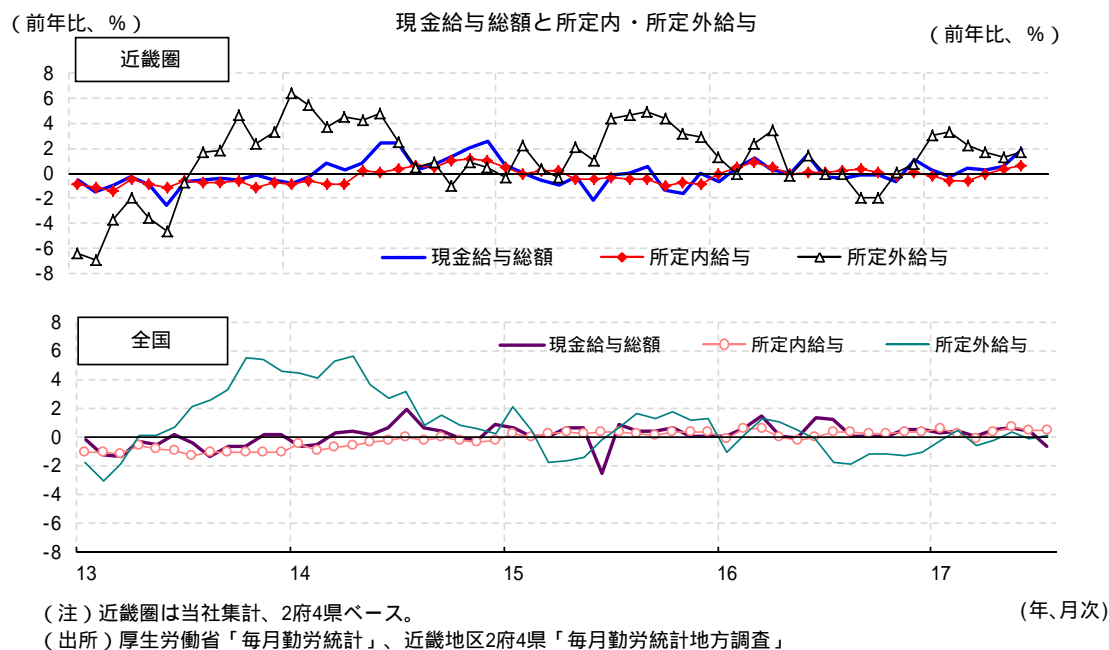


4. 賃金 ~持ち直しの動きが見られる

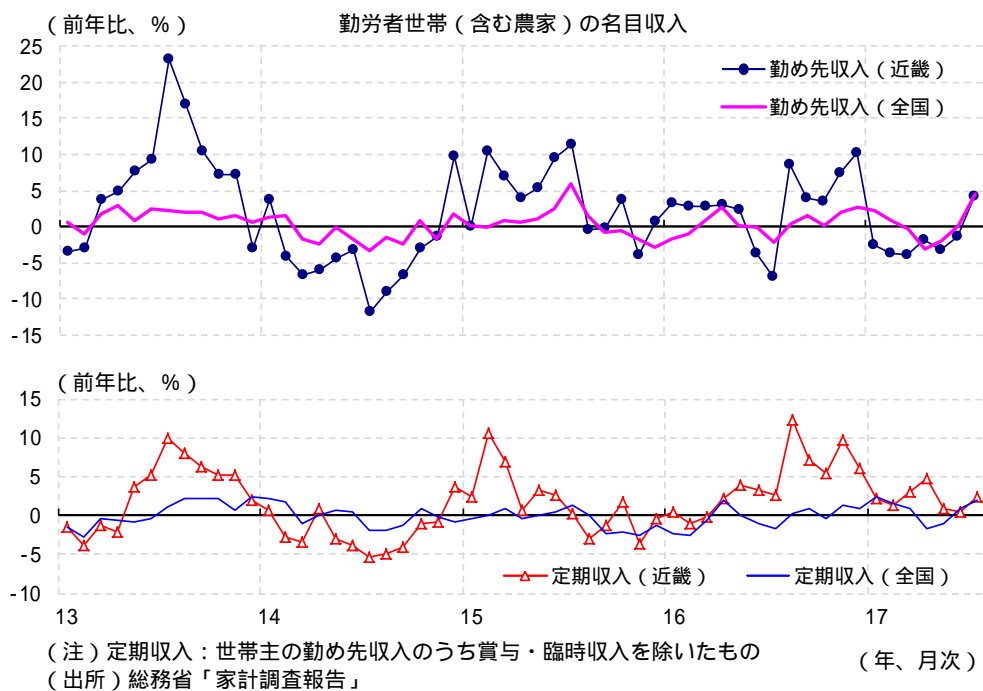
6月の名目賃金指数(現金給与総額)は、大阪(前年比+1.7%)は12ヶ月ぶりに上昇し、兵庫(同+2.4%)は9ヶ月連続で、滋賀(同+2.7%)と奈良(同+10.2%)は7ヶ月連続で上昇した。一方、京都(同-0.4%)は2ヶ月ぶりに低下、和歌山(同-0.7%)は5ヶ月ぶりに低下した。関西の賃金は、所定内給与が2ヶ月連続で増加となるなど持ち直しの動きが見られる。今後も、持ち直しの動きが続くと見込まれる。



6月の近畿圏の現金給与総額(加重平均)は前年比+2.0%の44.3万円と4ヶ月連続で増加し、定期給与は同+0.7%と3ヶ月連続で増加した。内訳をみると、所定内給与は同+0.6%と2ヶ月連続で増加した。所定外給与は同+1.7%と8ヶ月連続で増加した。

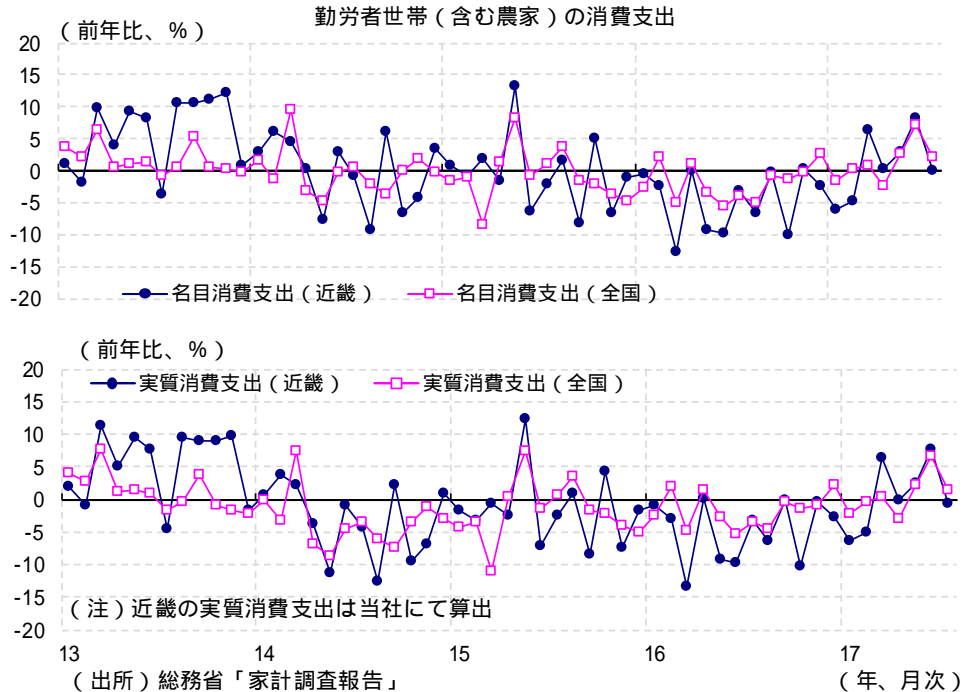


家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯(含む農家)の勤め先収入は前年比+4.3%の55.9万円と7ヶ月ぶりに増加した。また、世帯主の勤め先収入は同+4.8%の51.4万円と12ヶ月連続で増加した。世帯主の勤め先収入の内訳をみると、賞与・臨時収入を除いた定期収入は同+2.4%の36.6万円と16ヶ月連続で増加した。

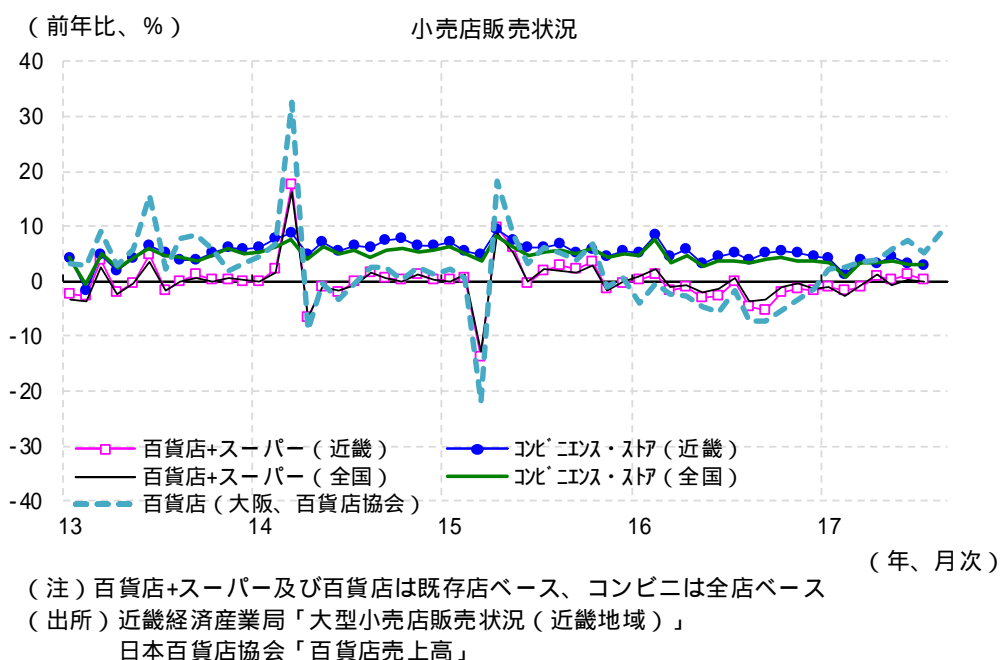


5. 個人消費 ~ 持ち直しの動きが見られる

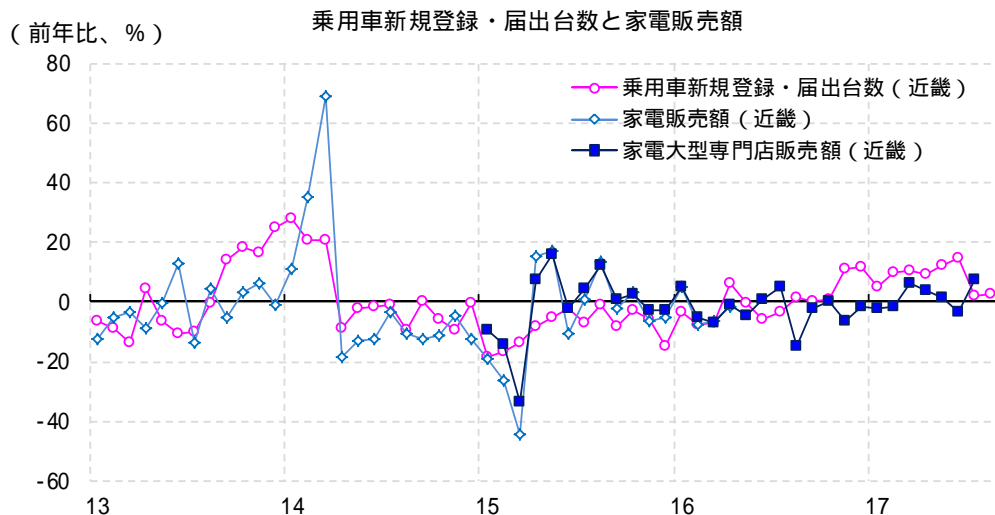
家計調査によると、7月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比 - 0.1%と5ヶ月ぶりに減少し、物価の上昇分を除いた実質では同 - 0.5%と3ヶ月ぶりに減少した。関西の個人消費は供給サイドの統計も含めて均して見ると、持ち直しの動きが見られる。今後は、所得環境の持ち直しを背景に、持ち直しが続くと見込まれる。



7月の近畿地区の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額（速報値）は、既存店で前年比 + 0.3%と4ヶ月連続で増加、全店では同 - 0.1%と2ヶ月ぶりに減少した。コンビニエンス・ストアの販売額（全店）は同 + 3.0%と53ヶ月連続で増加した。8月の大阪の百貨店売上高（百貨店協会）は、インバウンド関連の売上が引き続き好調に推移する中、同 + 8.6%（店舗調整後）と8ヶ月連続で増加した。

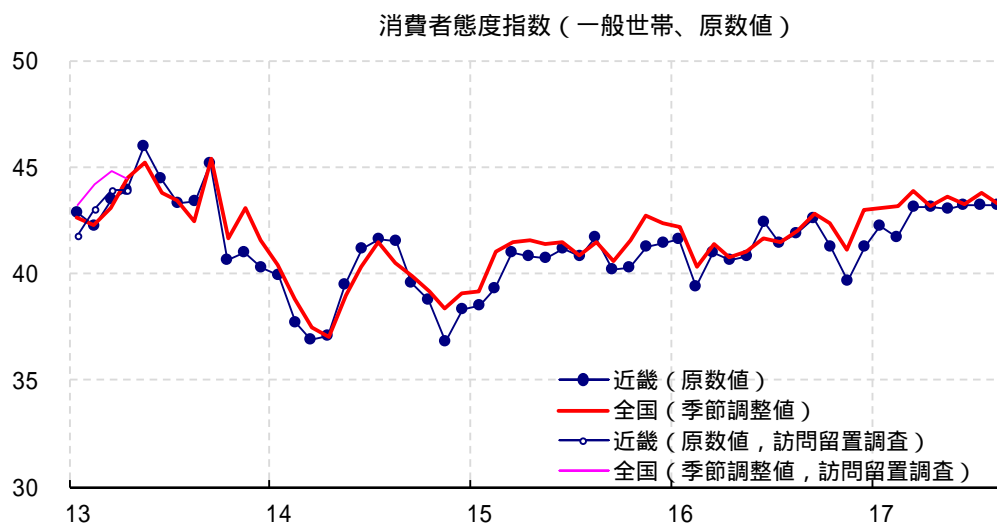


8月の近畿地区の乗用車新規登録・届出台数は前年比+2.4%と13ヶ月連続で増加した。普通車は前年比-2.6%と2ヶ月連続で減少したが、小型車は同+5.3%と2ヶ月ぶりに増加し、軽自動車は同+6.1%と7ヶ月連続で増加した。府県別では、大阪府、滋賀県、奈良県を除く1府3県で増加した。一方、7月の近畿地区の家電大型専門店販売額は、前年比+7.5%と2ヶ月ぶりに増加した。



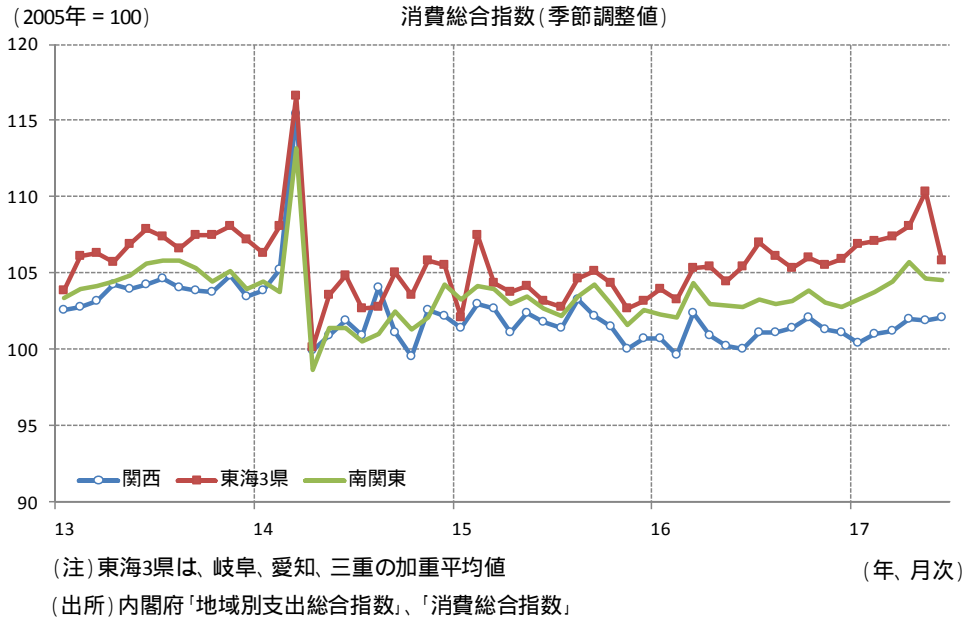
(注) 近畿の乗用車新規登録・届出台数は2府5県(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)、家電販売額は福井県を除く2府4県。
 (出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、近畿経済産業局「近畿経済の動向」、経済産業省「商業動態統計」

消費者マインドを表す消費者態度指数(近畿、一般世帯、原数値)は、8月は前月と同水準の43.2となった。近畿の消費者マインドは改善が一服している。今後についても、景気に持ち直しの動きが出ているものの、内外情勢の先行き不透明感が続く中で、消費者マインドは横ばい圏での推移が見込まれる。



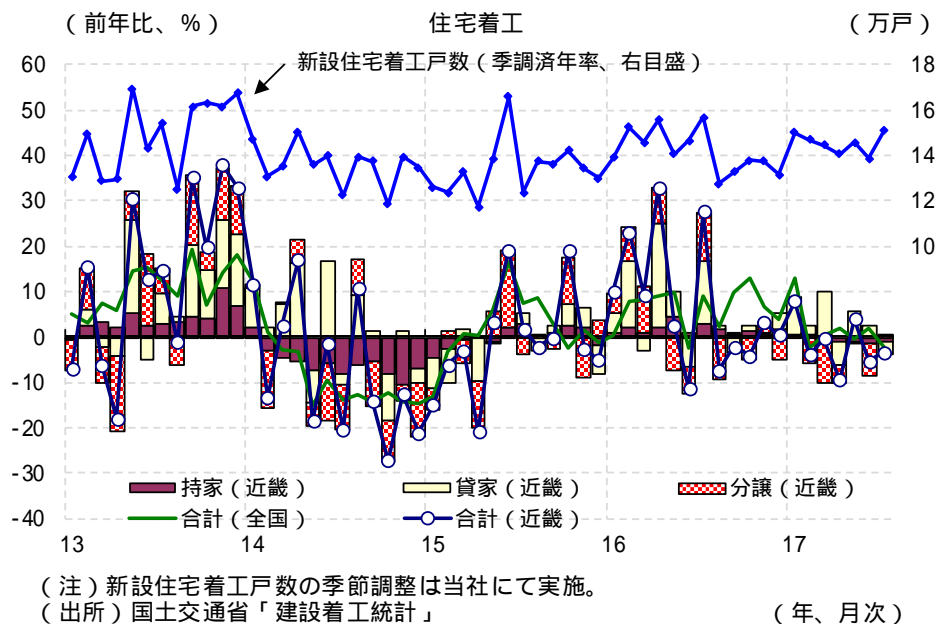
(注) 2013年4月調査より調査方法等を変更したため、それ以前の訪問留置調査の数値と不連続が生じている。郵送調査の2012年7月~2013年3月は試験調査による参考値。
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

内閣府が8月に公表した地域別消費総合指数によると、関西のサービス消費を含む個人消費の動向は、2014年4月の消費税率引き上げ後、水準を下げて横ばい圏で推移してきたが、2017年に入って以降、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

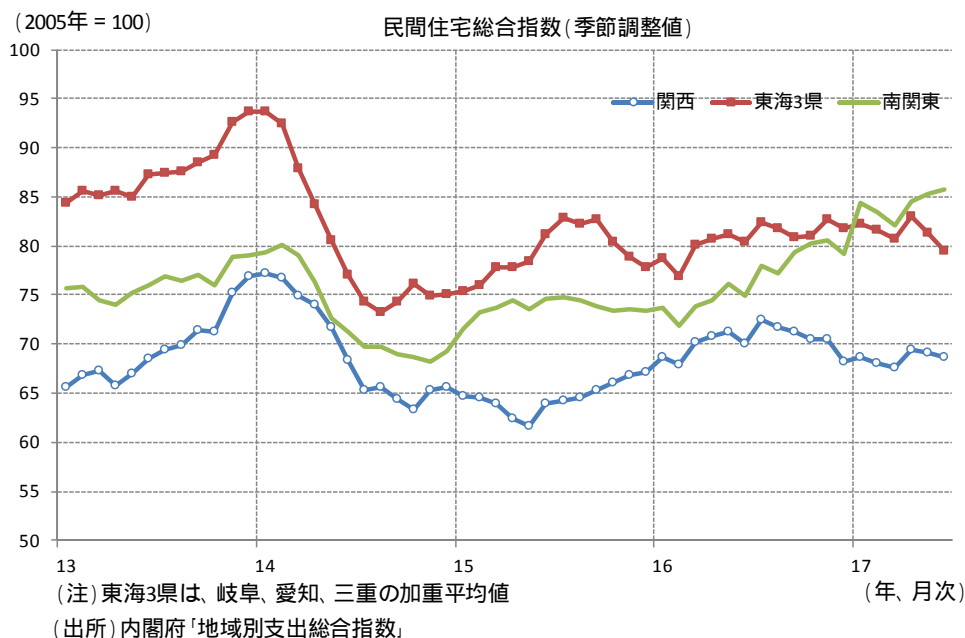


6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

7月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比 - 3.3%の12,601戸と2ヶ月連続で減少した。分譲は6ヶ月ぶりに増加となったが、持家は5ヶ月連続で減少し、貸家は3ヶ月ぶりに減少した。一方、季調済戸数は年率15.1万戸と2ヶ月ぶりに増加した。近畿の住宅着工は、相続税対策や低金利の影響による持ち直しが一服し、均して見ると横ばい圏で推移している。先行きについても、横ばい圏での推移が見込まれる。

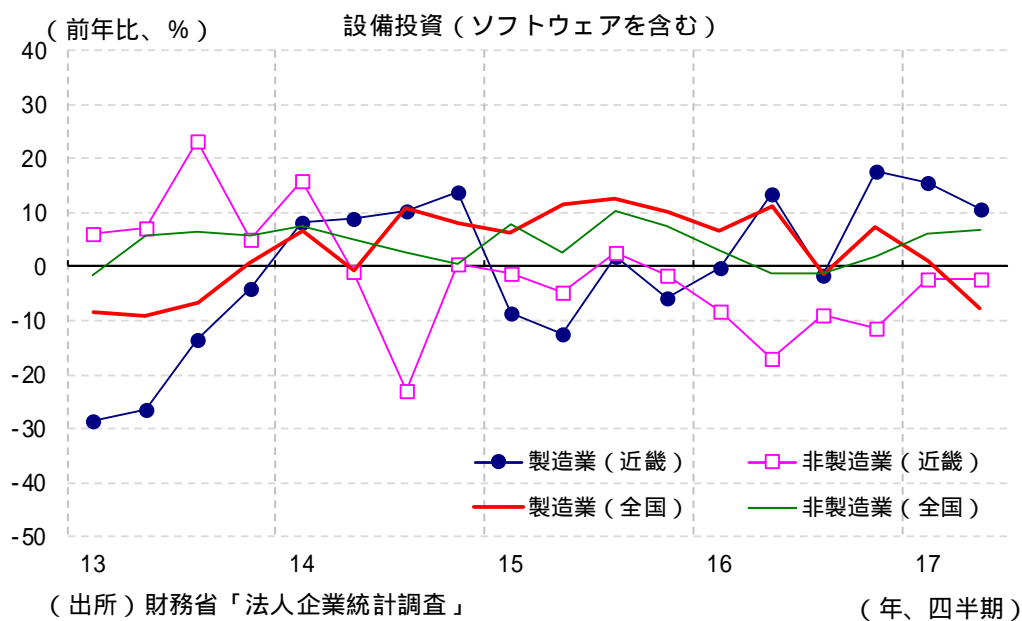


内閣府が8月に公表した地域別民間住宅総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、2014年1月をピークに急速に低下したが、14年7月以降は低下ペースが緩やかとなった。その後、15年半ば以降は上昇基調に転じたが、16年後半から弱含んでいる。

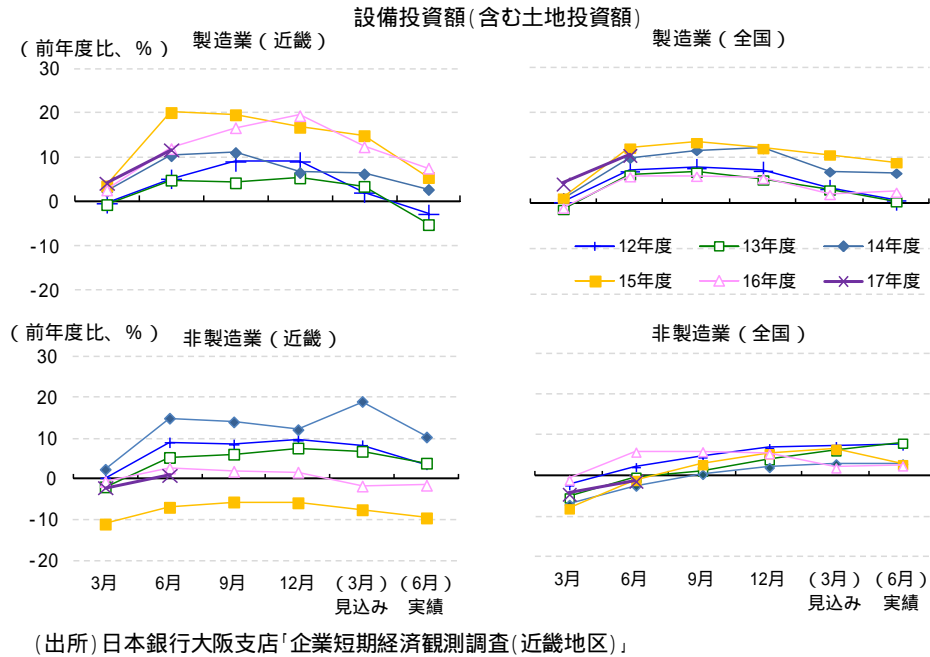


7. 設備投資 ~ 製造業を中心に持ち直している

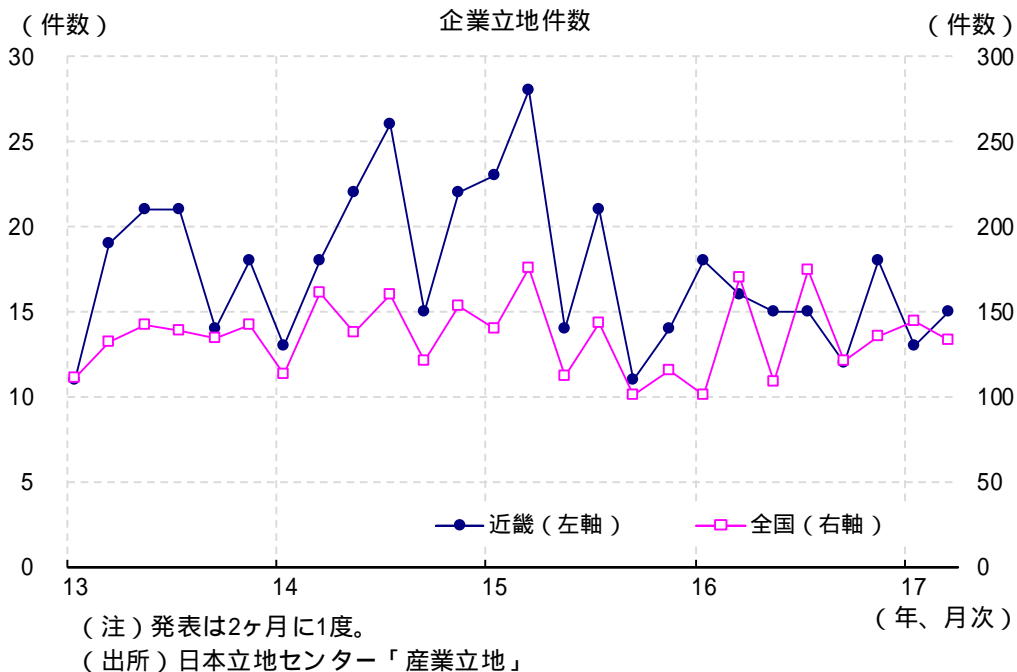
2017年4~6月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+4.2%と三四半期連続で増加した。内訳をみると、非製造業は同-2.3%と7四半期連続で減少したが、製造業は同+10.8%と三四半期連続で増加した。関西の設備投資は、製造業を中心に持ち直している。



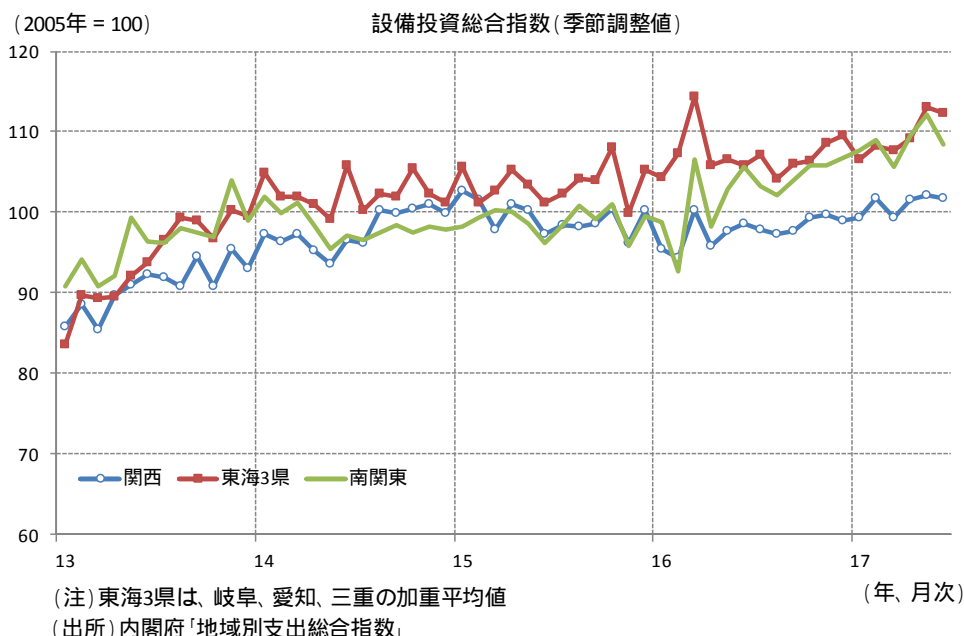
日銀短観6月調査によると、16年度の関西の設備投資(実績)は、全産業で前年比+2.1%、製造業は同+7.6%、非製造業は同-1.5%となった。17年度については、全産業で同+5.4%、製造業で同+11.7%、非製造業で同+0.9%と計画されている。



近畿地区の17年2・3月の企業立地件数は15件と、前期(16年12月・17年1月; 13件)を上回ったが、前年同期(16件)を下回った。近畿地区の企業立地は15年度前半は減少傾向で推移した後、15年度後半以降は横ばい圏で推移している。

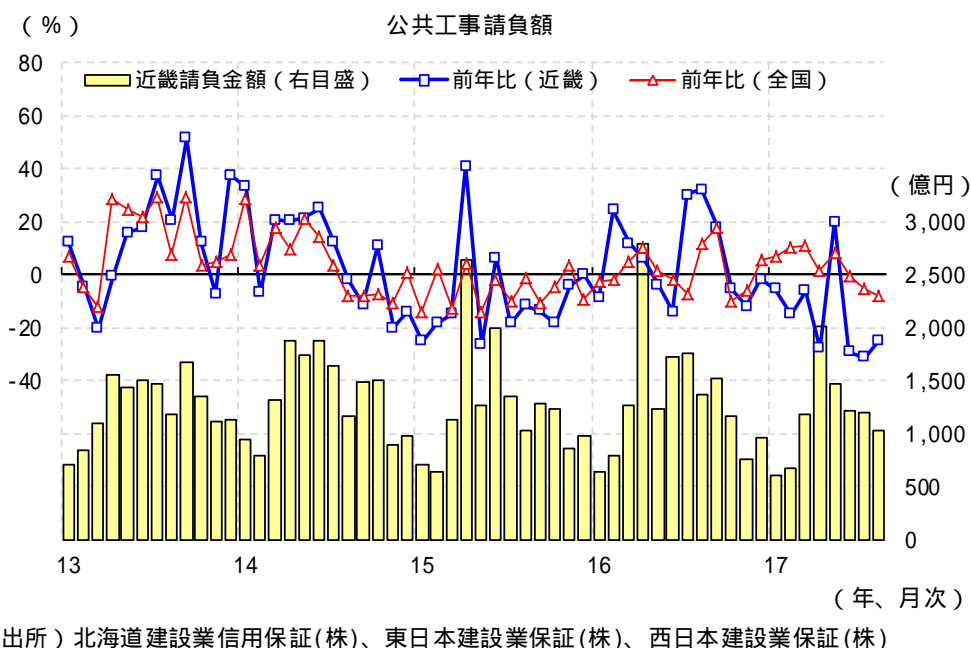


内閣府が8月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数によると、関西の民間企業設備投資は、2014年半ば以降は均してみると横ばい圏で推移している。16年に入ってからはやや弱含んでいたが、16年後半から持ち直しが続いている。

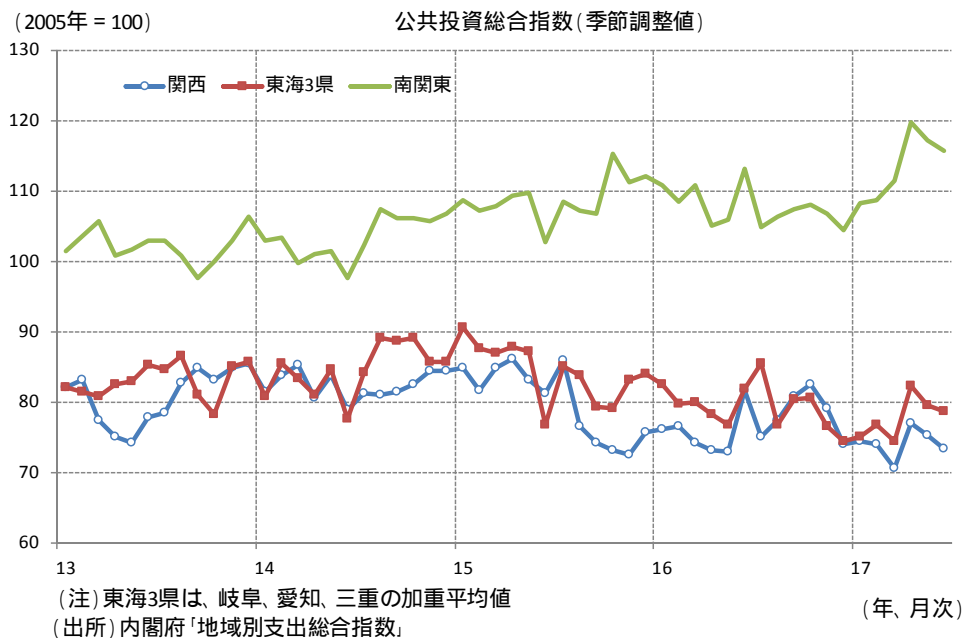


8. 公共投資 ~ 減少している

8月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比 - 24.7%の1,027億円と3ヶ月連続で減少した。府県別では滋賀が増加したが、奈良は前年とほぼ同水準となり、京都、大阪、兵庫、和歌山は減少した。発注者別では、都道府県、市区町村、地方公社が増加したが、国、独立行政法人が減少した。年度累計では、同 - 21.7%と期初から減少が続いている。先行きについては、減少傾向が見込まれる。

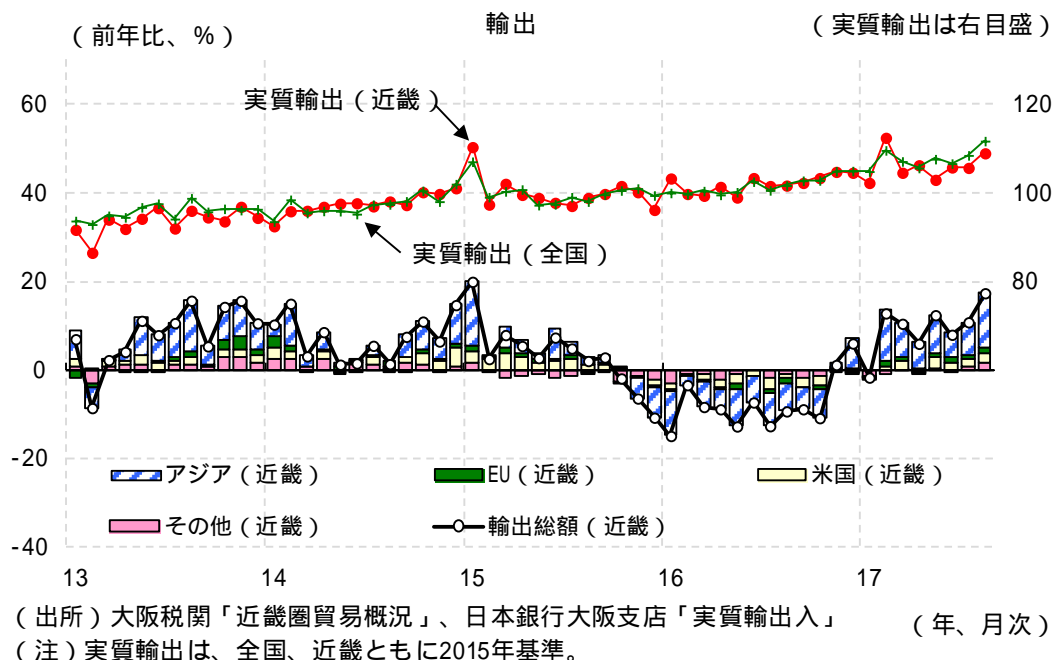


内閣府が8月に公表した地域別公共投資総合指数によると、関西の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年度に入って以降減少してきた後、16年度前半は増加したが、後半以降は減少している。17年度に入っても4月に増加した後は減少している。

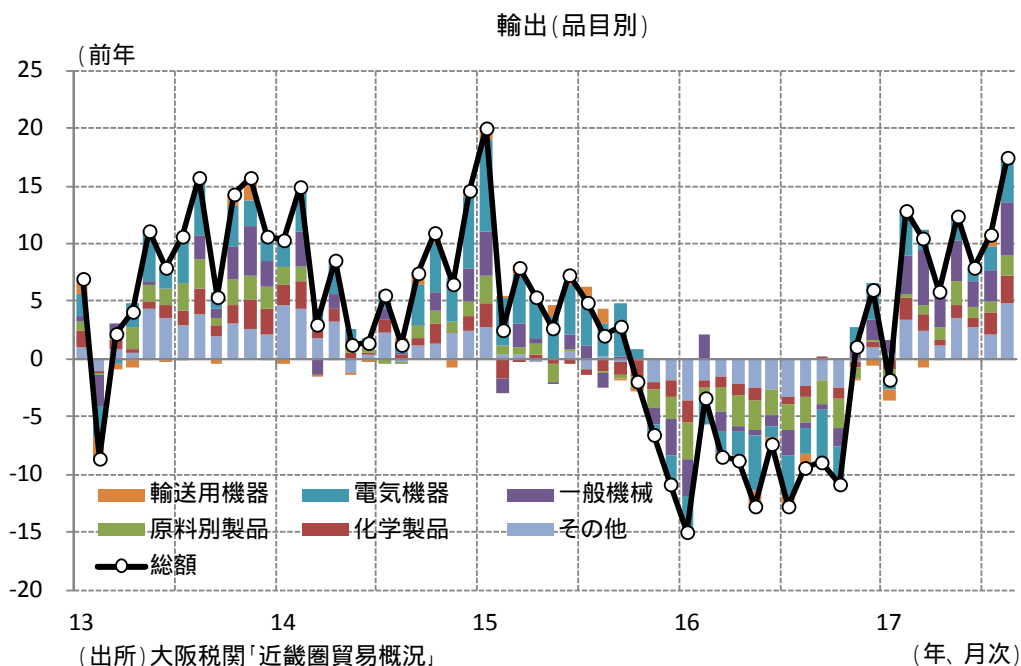


9. 輸出入 ~ 輸出は持ち直し、輸入は横ばい

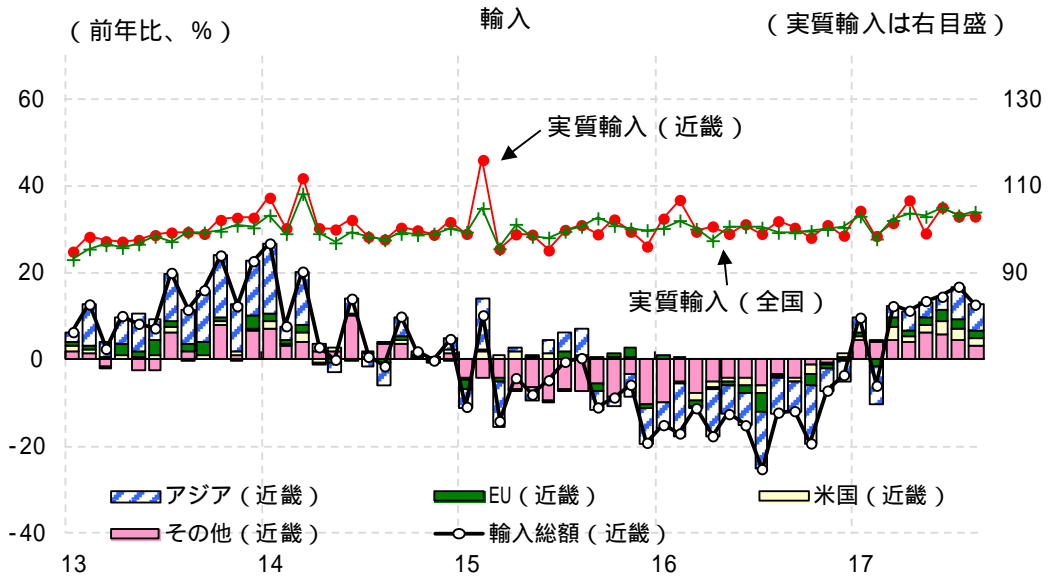
8月の近畿地区の実質輸出は前月比+3.1%と2ヶ月ぶりに増加となり、均してみると持ち直している。また、8月の名目輸出額は前年比+17.4%と7ヶ月連続で増加した。地域別では、米国、EUは4ヶ月連続で増加し、アジアは7ヶ月連続で増加した。今後については、海外経済の緩やかな回復が続く中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



8月の名目輸出額を品目別にみると、音響・映像機器部分品(前年比-51.6%)などが減少したが、科学光学機器(同+50.6%)、半導体等電子部品(同+15.4%)などが増加した。



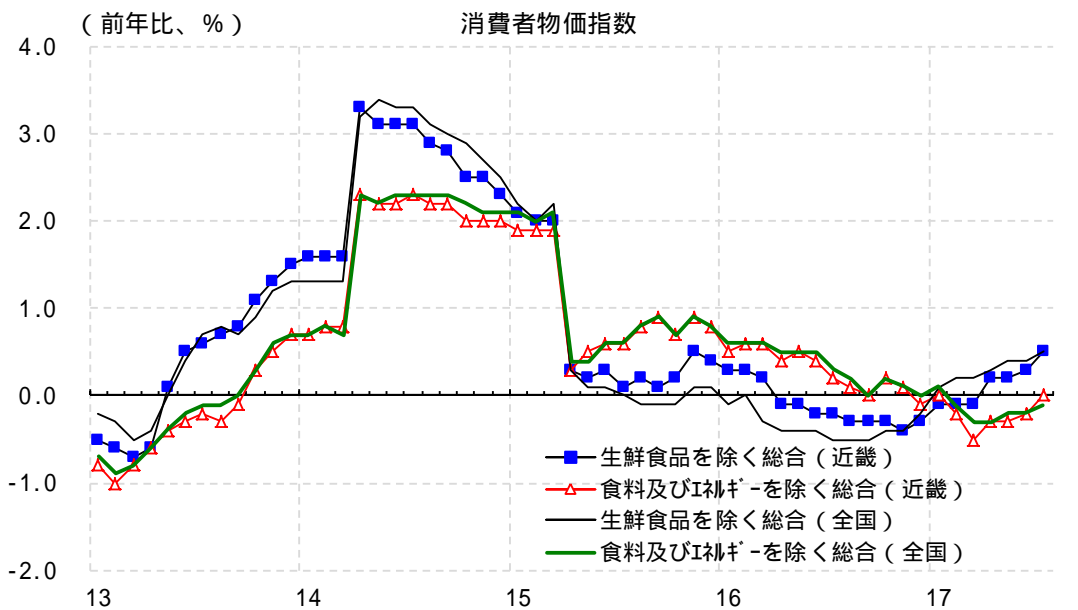
8月の近畿地区の実質輸入は前月比+0.0%となり、横ばい圏で推移している。また、8月の名目輸入額は前年比+12.6%と6ヶ月連続で増加した。地域別では、米国、アジア、EUいずれも増加した。品目別では、通信機、医薬品などが減少したが、半導体等電子部品、石炭などが増加した。今後も、国内需要動向を反映し横ばい圏の推移が見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」
 (注) 実質輸入は、全国、近畿ともに2015年基準。(年、月次)

10. 物価 ~ 緩やかに上昇

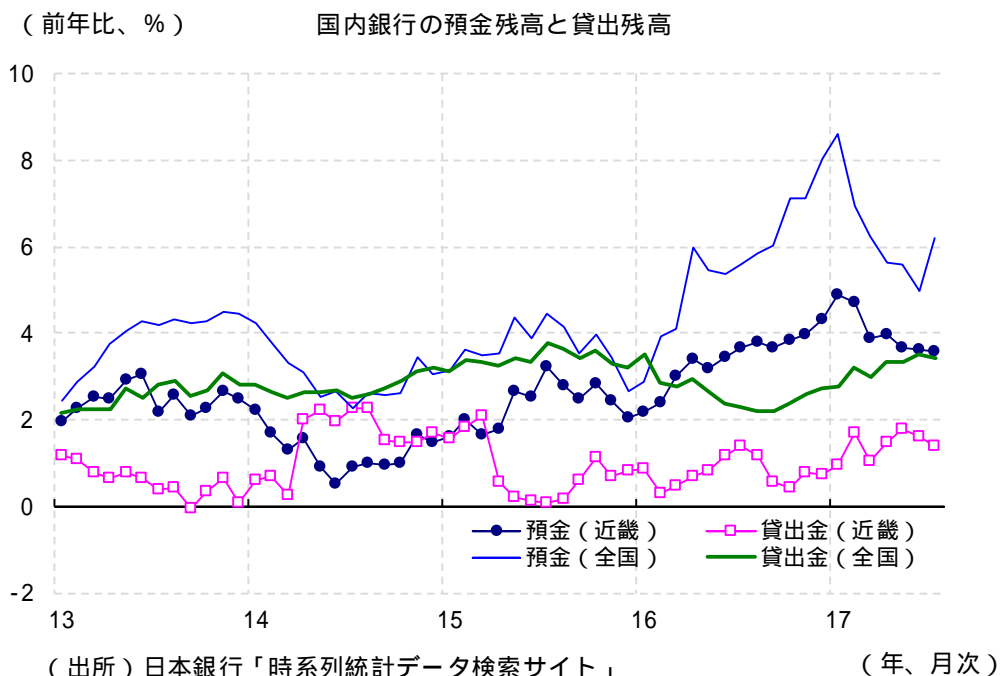
7月の近畿圏の消費者物価は、生鮮食品を除く総合が前年比+0.5%と4ヶ月連続で上昇した。エネルギー価格は5ヶ月連続で上昇し、食料価格(除く生鮮食品)の上昇も続いている。一方、食料・エネルギーを除く総合は前年と同水準となった。今後については、エネルギー価格の上昇幅の拡大が続くことなどから、消費者物価の前年比はプラス幅が緩やかに拡大していく見込みである。



(出所) 総務省「消費者物価指数」(年、月次)

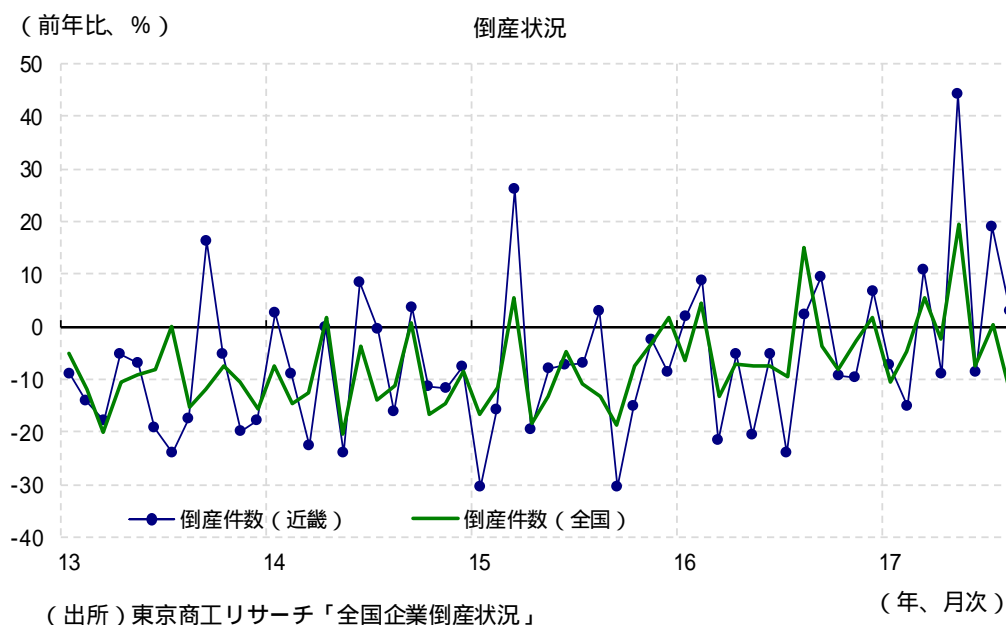
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

7月の近畿地区の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+3.6%の115兆円となった。定期性預金は減少が続いているが、要求払預金が増加している。また、近畿地区の7月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+1.4%の61.2兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



12. 倒産 ~ 倒産件数は増加、負債総額は減少

8月の近畿地区の倒産件数は、前年比+2.8%の181件(前年同月176件)と2ヶ月連続で増加した。府県別では、滋賀は6件(同11件)、京都は19件(同21件)、和歌山は2件(同6件)と減少したが、大阪は106件(同99件)、兵庫は39件(同31件)、奈良は9件(同8件)と増加した。一方、倒産企業の負債総額は、同-29.1%の170億円と2ヶ月ぶりに減少した。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後			3ヶ月前~	現況	~3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	→		↗
	東海	↗		↗		東海	→		↗
	関西	↗		↗		関西	→		↗
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	↗		↗
	東海	↗		→		東海	→		→
	関西	↗		↗		関西	→		→
住宅投資	全国	→		↘	生産	全国	↗		↗
	東海	→		→		東海	↗		↗
	関西	→		→		関西	→		↗
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	↗		→
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	↗		↗		関西	↗		→
公共投資	全国	↗		→	賃金	全国	→		→
	東海	↗		→		東海	→		→
	関西	↘		↘		関西	→		→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

(注) 1. 3ヶ月前~、~3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す

2. シャド部分、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す

3. 全国は9月4日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		8月のコメント	9月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが弱まっている	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しが一服	持ち直しが一服
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが一服	持ち直しの動きが一服
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
	関西	横ばい圏で推移している	持ち直しの動きが見られる
6. 住宅投資	全国	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
7. 設備投資	全国	緩やかに増加している	緩やかに増加している
	東海	非製造業を中心に増加している	大企業に弱さが見られるものの、 緩やかに増加
	関西	製造業を中心に持ち直しの動きが見られる	製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	横ばい圏で推移	増加している
	東海	増加している	増加している
	関西	減少している	減少している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しが一服している、 輸入は持ち直している	輸出は持ち直しが一服している、 輸入は持ち直している
	東海	輸出、輸入ともに横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出、輸入ともに横ばい	輸出は持ち直し、輸入は横ばい
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は減少、負債総額は増加
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は増加、負債総額は減少

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。